

「ちゃんこりん」は、ばあちゃんの一番の宝物やでな。「これは、祖母の口癖です。祖母は、私が生まれた時から「ちゃんこりん」と呼びます。しかし、私はこの呼び名が嫌でした。祖母は友達の前でも「ちゃんこりん」と呼び、普段も家中に聞こえる声で「ちゃんこりん」と呼びます。姉や兄に笑われるのがとても嫌で、何度も「止めてよ。」と言ってもその度「分かった。」と。でも、五分後には「ちゃんこりん」と呼ぶ始末。私は諦めの境地でした。

中学生になりその夏の地区総体のある日のことです。私は、百メートル走の選手に選ばれて意気込んでいました。スタートの目前になった時、緊張のあまり心臓の鼓動がドキドキとうるさいくらいになり、次第に手足の指が冷たくなりました。これではうまく走れないと焦りが最高潮に達していたその時、祖母の「ちゃんこりん頑張れ。」と耳にしました。「今なら速く走れそうだ。」と自信が湧いてきたのです。結果は、なんと自己ベストを更新して上位入賞。青空の下仲間と喜び合いました。すぐ祖母にお礼に行くと、「にかっ」と笑い頭を優しく撫でてくれました。

あの日あの時、祖母がかけてくれた「ちゃんこりん」の呼びかけは、私の心を鼓舞し、安心感を与えてくれました。今までどうして嫌だったのか不思議で、祖母に謝りたいと思いました。祖母のこの「ちゃんこりん」は掛け替えのない「私だけの宝物」で「特別な名前」という贅沢な幸せに気づけたのです。

私の宝物は、他の人ではなく祖母の心のもった声のみに呼ばれる「ちゃんこりん」という名前です。これには、安堵と幸せを感じられるのです。この祖母の「ちゃんこりん」は、何にも代え難い私にとって大切な宝物です。いつまでも健康に注意して元気で幸せに長生きしてね。おばあちゃん。ありがとう。